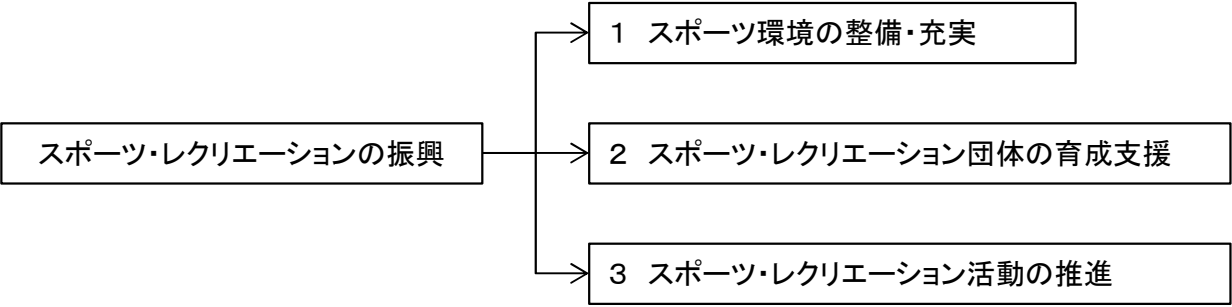


施策 4 スポーツ・レクリエーションの振興



基本事業 1 スポーツ環境の整備・充実

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
4-1 スポーツ環境の整備・充実	スポーツ・レクリエーション施設	安全で快適な環境が確保されている。	①「スポーツ・レクリエーション施設が使いやすい」と答えた市民の割合（市民意識調査） ②「スポーツ施設が整備されている」と答えた市民の割合（市民意識調査）	①％ ②％	①19.0 ②16.0	①22.5 ②21.5	①30.0 ②30.0	B 「スポーツ・レクリエーション施設が使いやすい」、「スポーツ施設が整備されている」と答えた市民の割合は増加傾向にあり、環境整備が進んでいる。今後とも、スポーツ・レクリエーションに親しむ環境を整えていく必要があることから、既存スポーツ施設の老朽化を踏まえ、計画的に施設整備等を実施するとともに、施設を利用したイベントの開催や提供、スポーツ・レクリエーションの振興による交流人口の拡大、市民への情報発信に努めていく必要がある。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
4-1-1 学校体育施設開放事業	市民	スポーツ・レクリエーション活動の場を確保する。	市内小中学校の体育施設をスポーツレクリエーション活動の場として住民に開放する（※市内小中学校体育施設の貸出しと実績の取りまとめ／管理指導員の委嘱と謝金の支払いなど）	利用件数	件	6,198	5,462	5,500	A 体育施設利用者のうち、4割程度は開放学校施設を利用しており、市民のスポーツ・レクリエーション活動の場を提供するための重要な事業となっている。	○ 学校の統廃合により、開放校の減少が見込まれ、既存の学校施設利用の需要が更に高まることが予想される。市民にとって身近なスポーツ施設として、社会体育施設の機能を補完する重要な役割を担っており、現状の事業を維持していく必要がある。
4-1-2 体育施設整備事業	整備、改修する施設	スポーツ施設を整備する。	スポーツ施設の整備、改修など	事業進捗率	％	100	100	100	A スポーツ施設の老朽化が目立つことから、緊急度や優先度を考慮し、計画的にスポーツ施設・設備を整備・改修したことにより、より良いスポーツ施設環境の充実が図られ、良好な状況で施設が利用されている。	○ 基本的には現状を維持するが、施設の老朽化を踏まえ、長寿命化、高機能化等を計画的に進め、スポーツ施設の充実によりより良い環境を図る必要がある。このため、スポーツ施設整備基本計画を策定する予定としている。

基本事業2 スポ・レク団体の育成支援

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
4-2 スポーツ・レクリエーション団体の育成支援	体育協会 スポーツ・レクリエーション団体	市民のスポーツ・レクリエーション活動を支える。	①スポーツ・レクリエーション指導者数(生涯学習課業務取得)スポーツ推進委員	①人	①22	①22	①30	A スポーツ少年団指導者については、概ね確保されているが、地域を代表するスポーツ推進委員については、担い手、若手の人材不足、高齢化等が懸念されている。 また、各種競技団体においては、自主的な活動が行われている一方、競技種目の多様化による競技人口の減少や偏りが見られていることから、スポーツ団体が、自主的にスポーツ・レクリエーション活動が実施できるよう、各スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブの組織を強化するための支援策等が課題となっている。
			②スポーツ少年団指導者数(生涯学習課業務取得)	②人	②267	②271	②285	



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
4-2-1 スポーツ推進委員設置運営事業	スポーツ推進委員	市民のスポーツ・レクリエーション活動を支援する。	スポーツの指導、マラソン大会など教育委員会等が行う事業への協力、市民のスポーツ振興、東北地区スポーツ推進委員研修会等への参加	スポーツ推進委員に係わるイベント数	回	7	7	7	A スポーツ推進委員の指導等を通じて、市民がスポーツに親しむ機会や多様なスポーツ活動が確保されている。 また、市民のスポーツ・レクリエーション活動の促進のため、有効な手段のひとつであるニュースポーツの普及には、スポーツ推進委員の指導が不可欠である。スポーツ推進委員は、スポーツイベントの運営スタッフとしても重要な役割を担っている。	○ スポーツ推進委員の各種行事への参加率向上と、自主事業の開催による普及活動の活性化、委員数の増加を図りながら、地域スポーツの振興のため、現状の事業を維持していく必要がある。
4-2-2 一般財団法人大船渡市体育協会運営支援事業	大船渡市体育協会	円滑に運営できるようにする。	県民体育大会への選手派遣、市民体育大会の開催・運営、各加盟競技団体やスポーツ少年団の育成・支援等	市からの補助金額	千円	9,300	9,100	9,800	A 市民へのスポーツ振興・普及を図るため、市教育委員会をはじめ、関係団体等と連携しながら、効果的な事業運営に努めている。	○ 市体育協会は、野球協会をはじめとする各単位協会を束ねる唯一のスポーツの普及活動を実施する団体であることから、市内のスポーツ・レクリエーション活動の停滞を招かないよう、引き続き、市をはじめ関係機関団体等との連携の上、各協会活動を維持する必要がある。

基本事業3 スポ・レク活動の推進

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
4-3 スポーツ・レクリエーション活動の推進	市民	スポーツ・レクリエーション活動に参加する機会が増える。	市民体育大会参加者数(生涯学習課業務取得)	人	1,297	1,170	1,800	B 市及び関係団体が提供するスポーツ・レクリエーション事業への参加者数は減少傾向にあるが、スポーツ・レクリエーション活動のニーズは多様化しているとともに、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会などのスポーツイベントの影響等もあり、日常的にスポーツに親しむ人が増えている状況にある。 引き続き、市体育協会が実施する各種スポーツ教室をはじめ、関係機関・団体等と連携・協力を図りながら、市民ニーズに応えられるよう、スポーツ・レクリエーションの機会を提供していく必要がある。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標		
4-3-1 各種スポーツ大会運営支援事業	市体育協会	円滑に大会運営してもらう。	・大船渡新春四大マラソン大会（H30年度道路工事の影響により中止）、大船渡ポートサイドマラソン大会、大船渡ポートサイドバレーボール大会の開催 ・全日本学童軟式野球大会岩手県大会 ・岩手県民体育大会（バレー競技）	①大会参加者数 ②補助金額	①人 ②千円	①2,408 ②3,300	①1,061 ②2,530	①2,500 ②3,300	A 事業の実施により、大会の円滑な運営が図られるとともに、育成支援にも繋がっている。 また、陸上競技（マラソン・駅伝）及びバレーボールの普及を図ることによって、当市のスポーツ・レクリエーション活動の推進が図られ、当市出身のアスリートを顕彰する大会や県大会以上の高レベルの大会を当市で開催することで、市民のスポーツに対する意識向上、運動習慣のきっかけづくりとなっている。	○ 競技力向上や健康増進等の従来のスポーツ大会に求められる成果に加え、交流人口の拡大や経済への波及効果など、スポーツ大会に求められる多様な効果が得られるよう、継続した取組を進める必要がある。
4-3-2 復興「ありがとう」ホストタウン事業	市民	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた市民の盛り上がりと交流マインドを醸成する。	東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けて、市民の盛り上がりと交流マインドの醸成を図るため、米国を相手国として、スポーツ交流（米国代表選手による体操体験会、陸上クリニック、3×3バスケット大会）や音楽などの文化交流（米国ロサンゼルスで開催されたパネルディスカッションへの参加、米国人ミュージシャンらによるジャズコンサート、在札幌米国総領事館領事による読み聞かせイベント）を実施	イベント参加者数	人	405	310	200	A 東日本大震災後、海外の様々な国等からいただいた支援に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、復興する姿の発信、市民間の国際交流を通じた東京2020オリンピック・パラリンピックの機運醸成のために、様々な交流事業を実施しており、市民の関心がより高まり、スポーツ・レクリエーション活動の推進が図られている。	○ スポーツの祭典であるオリンピックの開催に合わせて様々な交流事業を実施することで、スポーツ・レクリエーション活動に対する市民の関心が高めながら、復興支援によって生まれた絆が今後も末永く続くよう、今後も継続した交流事業を実施していく必要がある。

□総括

施策名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H30実績	R1実績	R2目標	
4 スポーツ・レクリエーションの振興	市民	生涯にわたってスポーツを楽しむ	①「日頃から継続して何かスポーツをしている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①15.5	①15.9	①15.0	B 市及び関係団体等が提供するスポーツ・レクリエーション事業のほか、様々な機会を捉えて自発的にスポーツ・レクリエーションに取り組む人や近年の健康志向の高まりから、ウォーキングやランニング、グランドゴルフなど、気軽にスポーツ・レクリエーションに親しむ人が増えている傾向がある。 体育施設(学校施設開放を含む)の利用者数は、減少傾向にあるものの、市体育協会等と連携を図りながら、ファミリーウォーキングをはじめ、スポーツ少年団交流大会、高齢者スポーツ交流大会や市民の体力向上などを目的とした各種教室を効果的に開催したことにより、スポーツ・レクリエーション機会の拡充が図られている。 スポーツ施設については、施設の老朽化が目立つことから、緊急度や優先度を考慮し、計画的にスポーツ施設・設備を整備・改修したことにより、より良いスポーツ施設環境の充実が図られ、良好な状況で施設が利用されている。
			②体育施設等の延べ利用者数(生涯学習課業務取得)	②人	②276,406	②266,428	②490,000	
			課題					
			・市スポーツ推進計画の着実な推進 ・既存体育施設の老朽化を踏まえた、施設の長寿命化、機能向上・高機能化等の計画的な推進 ・スポーツ・レクリエーションの振興による交流人口の拡大や、市内への多面的な経済的波及効果を目指した関係団体等との連携推進体制の整備					